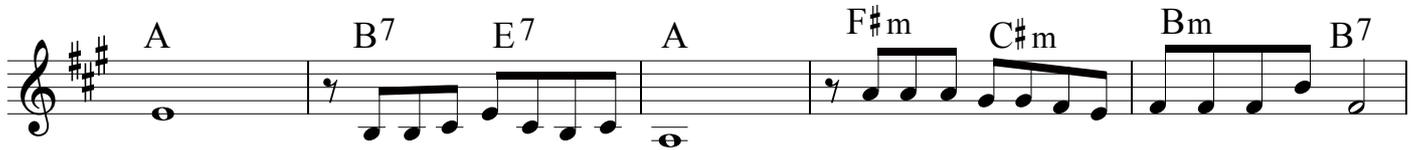


桃の花

門倉 さとし 作詩
神野 和博 作曲



かぜのなかで つぼみがゆれる かぜのなか
ひかりのなかで はながゆれる ひかりのなか



で つぼみがゆれる あわいピンクのくちべにを
で はながゆれる あおい空を舞台にして



はじめてひいた少女のようにながいふゆに
ゆめをおりだすおどりこたちがはるのたよりを



ほほをそめてふるえながらら つぼみがひら
はなびらにしてりょうせんをうめはながかお



くる ころやさしいふるさとのひとのおも
はたらきもののふるさとのひとのねが



い が あふれるように
い が ひろがるように

1 風の中で つぼみがゆれる
風の中で つぼみがゆれる
あわいピンクのくちべにを
はじめてひいた少女のように
長い冬に ほほを染めて
ふるえながら つぼみがひらく
ころやさしいふるさとの
人のおもいが あふれるように

2 光の中で 花がゆれる
光の中で 花がゆれる
あおい空を 舞台にして
夢を織り出す 踊り子たちが
春のたよりを はなびらにして
稜線をうめ 花がかおる
はたらきもののふるさとの
人のおもいが ひろがるように